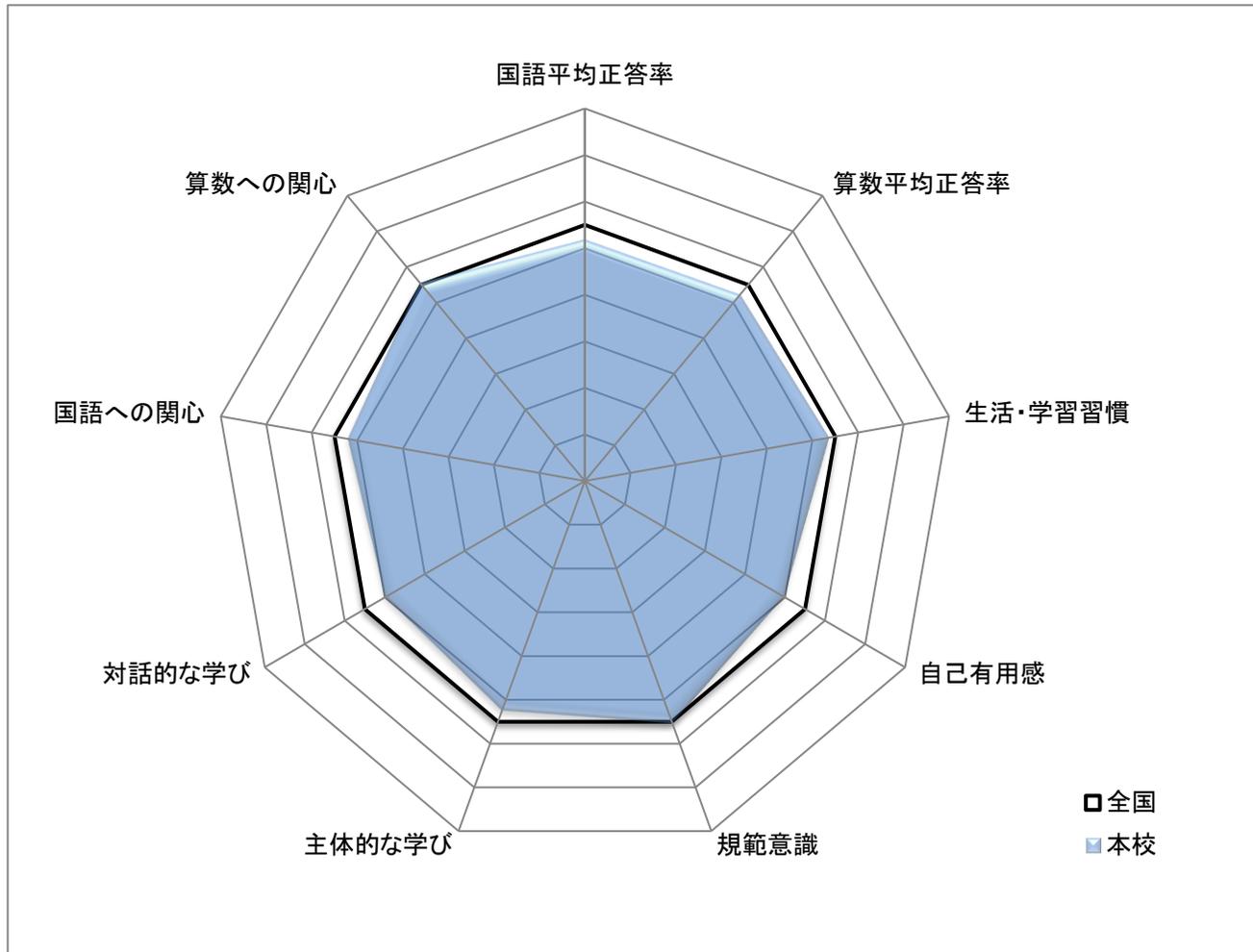


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○国語、算数ともに全国平均を下回っている。その原因として、基礎的、基本的な学習が身につけていないことがあげられる。
 ○学習習慣が身につけていない児童も少なくないため、家庭との連携が必要であると考えられる。
 ○規範意識は身に付いていることから、学習のルールづくりをして、取り組むことが有効であると考えられる。
 ○主体的・対話的で深い学びのさらなる推進、授業改善が課題である。

《授業改善のポイント》

基礎学力の定着
 ○朝学習、家庭学習で基礎、基本を中心とした学習（四則演算など）に取り組む。また、授業開始時などに小テストを行い、定着度を把握する。
 ○文章を書くことが苦手な児童が多いため、授業の中で、短い文章を書く場面を意図的に増やした授業改善を工夫する。
主体的・対話的で深い学びの推進
 ○「めあて」や「まとめ」など、児童の思考の流れに沿った板書、授業展開を工夫し、児童の意欲を高める。
 ○「オクリンク」や「ムーブノート」を活用した授業改善を行い、児童相互の情報共有の場を設定し、話し合い活動を活性化させる。

《チャートの特徴》

○規範意識と算数への関心を除き、どの領域も全国平均を下回った。昨年度まで、算数科においての問題解決学習を重視した校内研究を推進していたため、その成果がやや高めの傾向を示したと考えられる。
 ○自己肯定感の領域の低さが特に課題であると考えられる。問題解決学習のさらなる推進と、ペア学習やグループ学習を取り入れた学習展開の工夫を図り、主体的・対話的で深い学びの充実させ、その中で、児童が「できた。わかった。」と感じた時に適切に称賛することが必要であると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

○ドリルパークを活用した家庭学習の協力を働きかけ、学習習慣を身に付けさせる。
 ○児童の学習課題を把握し、家庭と共有することで、家庭と学校が連携して、適切な指導をすることができる。